

立命館アジア太平洋 大学 卒業後アンケート 基礎集計報告書（2023 年）



立命館アジア太平洋大学 IR チーム

メール [irteam@apu.ac.jp]

目次

調査の概要	2
調査の目的	2
調査の対象	2
調査の方法	2
調査の期間	2
主な調査項目	2
回収の状況	2
回答者の属性	3
大学時代の様子	5
大学卒業後の様子	6
大学に対する満足度	9
卒業生が考える重要なコンピテンシー	12

調査の概要

調査の目的

APU 卒業生が在学中に経験した学びや経験が、卒業後にどのように活用・実践され役立っているか、卒業生がどのように評価しているかを明らかにし、APU が掲げる人材育成目標(APU2030 ビジョン・ディプロマポリシー)の成果検証を卒業生の視点を利用して行い、結果を今後の教育改善への取り組みに繋げる。

また、現在の職業や社会的地位等の実態を把握することで、潜在的な支援者の掘り起こしも行う。

調査の対象

卒業後 5 年、10 年、15 年にあたる卒業生

2023 年度:合計 3,354 人のうち、大学がメールアドレスを把握している*2,491 人

*卒業アンケートにて卒業後の連絡先としてメールアドレスを登録

調査の方法

インターネットによるオンライン調査(無記名)*

*アンケートシステム SHANON を利用

調査の期間

2024 年 1 月

主な調査項目

- ・属性(卒業年度、学部、国内/国際学生、言語基準、国籍)
- ・大学時代の活動(学習時間、成績、留学経験)
- ・卒業後の状況(現在の居住地、卒業直後の進路、海外勤務経験、転職経験、卒業後に修得した学位や資格)
- ・APU への満足度、帰属意識、支援意欲
- ・APU で習得した資質・能力に対する評価
- ・年収、社会的地位 *任意

回収の状況

対象者へアンケート協力の依頼メールを送信し、263 人から回答を得られた。

(回答率 11.0%。2,491 人のうち 92 人がメールアドレス変更等で送信エラーとなった)

参考:直近 3 年間の調査対象者数と回答率

実施年度	対象卒業年度	対象者数	メールアドレスを把握している数	メールが送信出来た数	回答率
2021 年度	2016、2011、2006 年度	3,393 人	2,411 人	2,294 人	9.9%
2022 年度	2017、2012、2007 年度	3,549 人	2,298 人	2,093 人	10.2%
2023 年度	2018、2013、2008 年度	3,354 人	2,491 人	2,399 人	11.0%

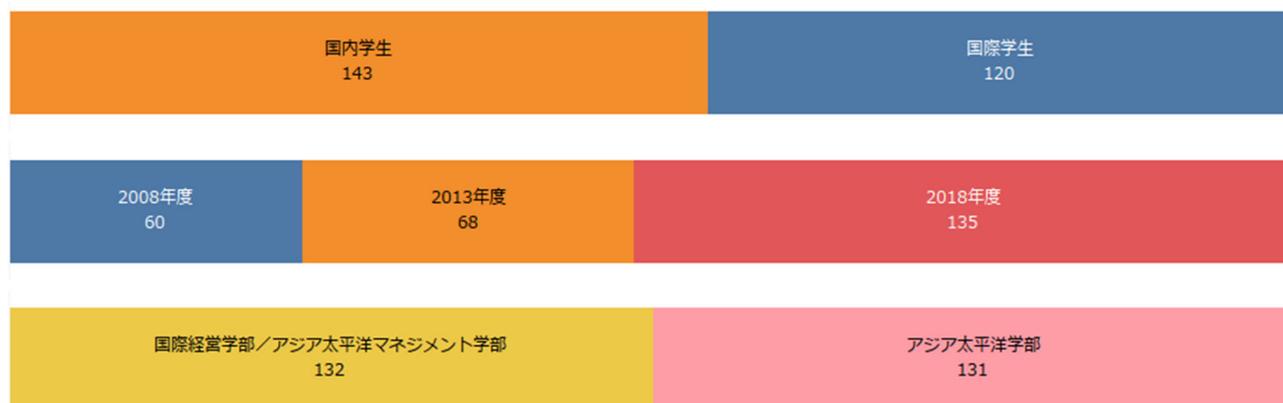
回答者の属性

在学時の学部別と国内学生・国際学生別、卒業年度別の内訳を以下に示す。

学部や国内学生・国際学生による大きな偏りはみられない。

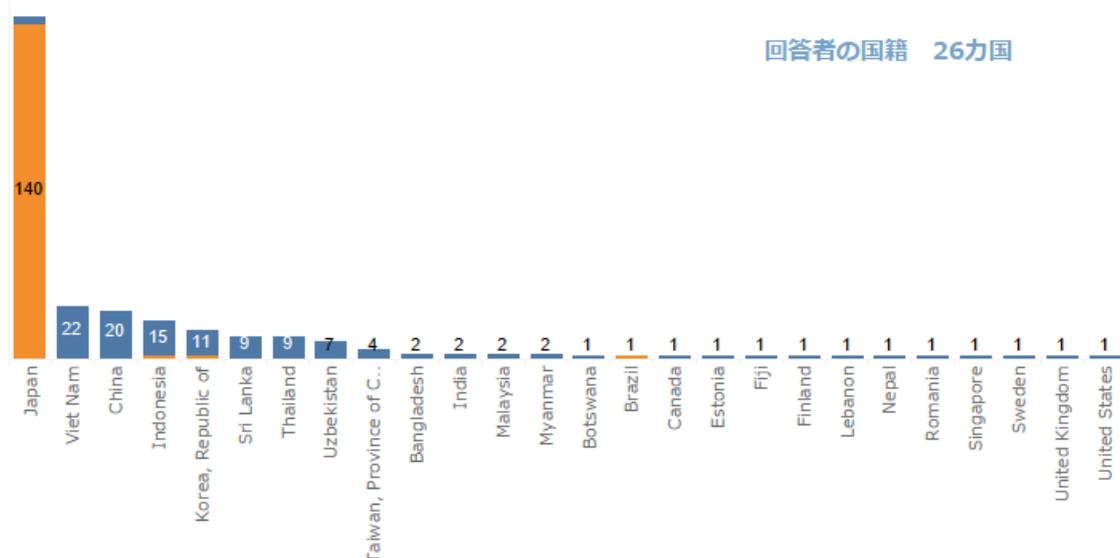
卒業後 15 年は卒業後 10 年、5 年よりも卒業生少ないため回答者も少なくなっている。

学部	国内・国際 学生	2008 年度 (卒業 15 年)		2013 年度 (卒業後 10 年)		2018 年度 (卒業後 5 年)		回答者 総計
		卒業者	回答者	卒業者	回答者	卒業者	回答者	
アジア太平洋学部	国際学生	147	10	147	10	270	34	54
	国内学生	292	17	374	22	412	38	77
国際経営学部	国際学生	219	9	368	22	399	35	66
	国内学生	275	24	229	14	223	28	66
総計		933	60	1,118	68	1,304	135	263



回答者の国籍は 26 カ国・地域。

日本が一番多く、次いでベトナム、中国、インドネシアと続く。

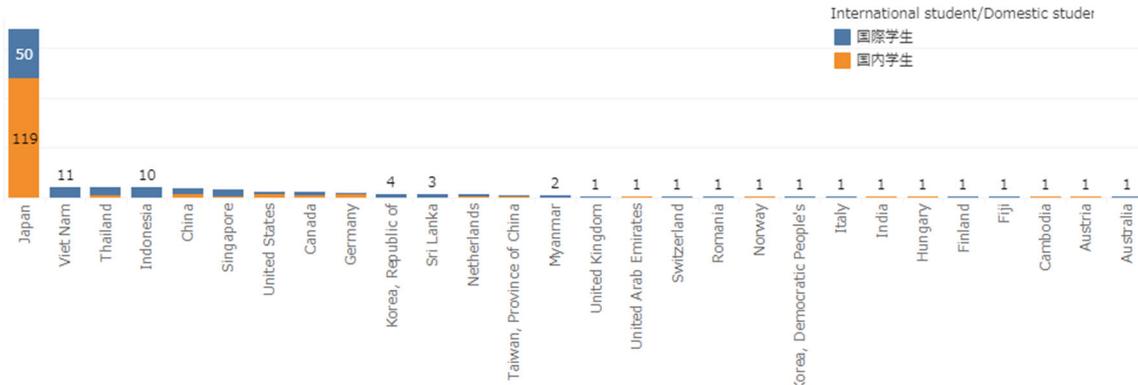


現在の居住地の分布においても日本が最も多く、次いでベトナム、タイ、インドネシアと続く。

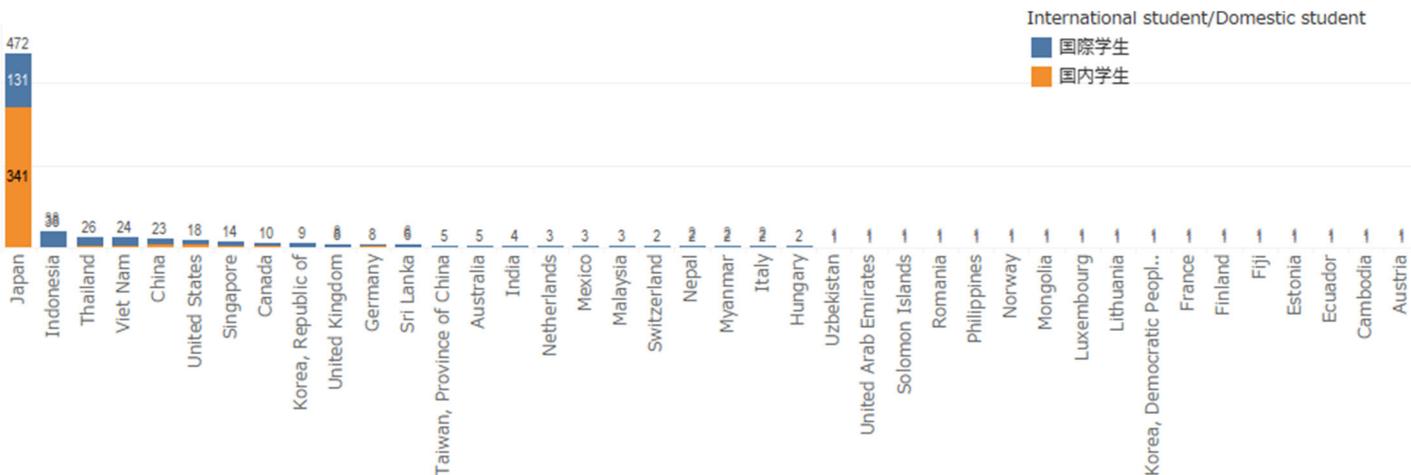
経年で見ると、日本が最も多く、次いでインドネシア、タイ、ベトナムという順であった。

インドネシアとタイには人数に開きがあり、タイに続くベトナム・中国・シンガポールが僅差のため、3位以降は流動的である。

(2023年度)



(参考:経年データ)

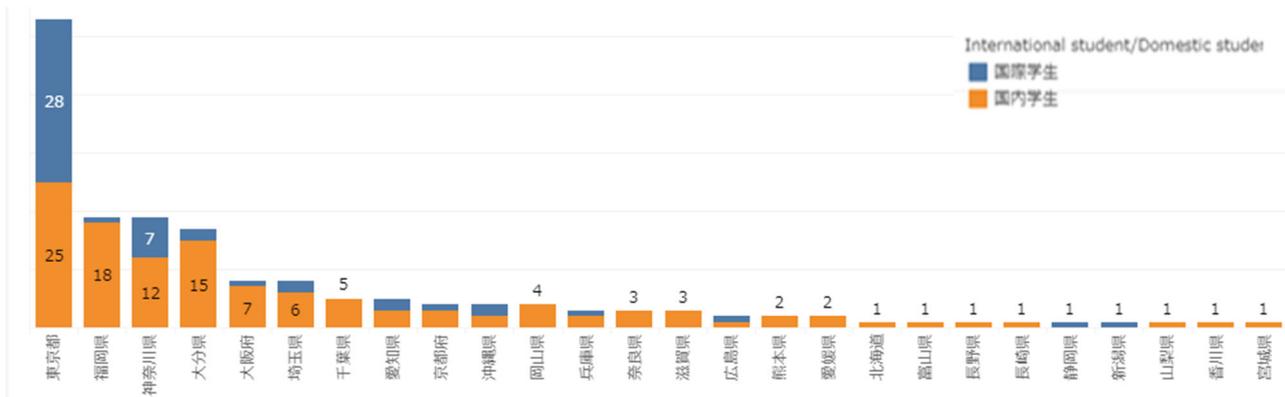


国内の居住地都道府県別では東京都が最も多く、次いで福岡県、神奈川県、大分県と続く。

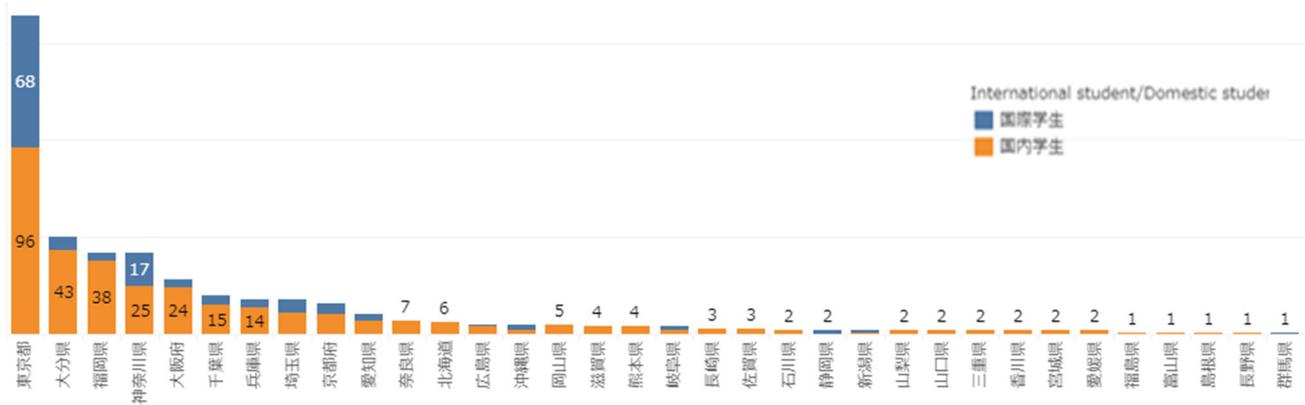
経年で見ると、東京都が最も多く、次いで大分県、福岡県、神奈川県という順であった。

大分県と福岡県には人数に開きがあるが、福岡県・神奈川県が僅差のため3・4位は流動的である。

(2023年度)



(参考:経年データ)



大学時代の様子

<在学中の成績と学習時間、留学経験等>

成績優秀層(「やや上位」「上位」と回答した層)であったと自己認識を持つ卒業生が約 45%と半数近くとなっている。

1週間当たりの学習時間については、「7時間程度」が最も多く、「10時間以上」「15時間以上」「20時間以上」の回答を合わせると半数以上となった。半数以上の学生が少なくとも1日約85分学習に費やしていたことが分かる。

あなたの在学中の成績はどれくらいだったと思いますか。



あなたは、大学在学中、1週間あたり平均でどのくらい「自主学習」をしていましたか(授業の予習、復習、課題、日常的な学習時間)

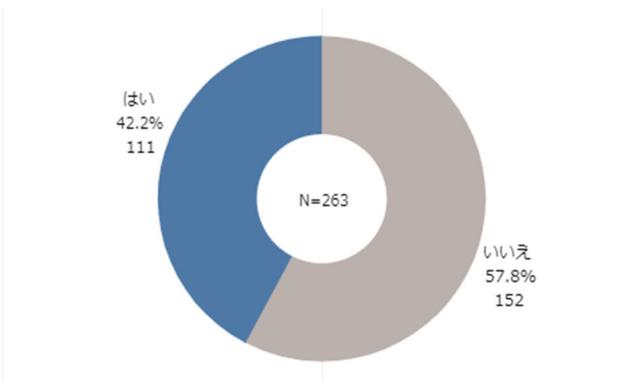


在学中の留学経験は42.2%が「ある」と回答している。

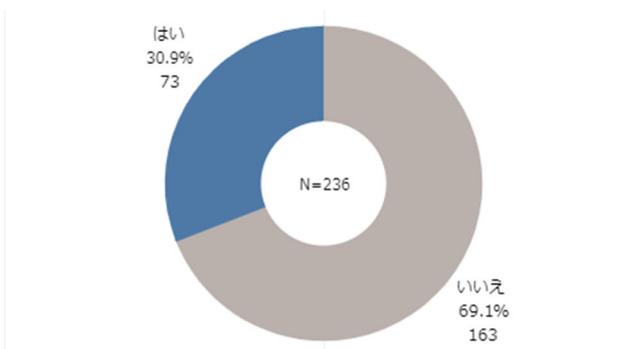
第一世代(First Generation College Students)に関する質問はSDGsへの取り組みや大学ランキングで利用される指標であることに鑑み、今回以下の説明文を付した上で質問を行った。First Generationで「ある」と回答した割合は30.9%であった。

経年データを見ても、こうした在学中の様子に大きな数字の変動(変化)は見られない。

あなたは大学在学中、留学（海外短期研修や国際ボランティアなどを含む。海外旅行は除く）の経験がありますか



あなたは両親が大学学位を持っていない（大卒ではない）「第一世代大学生」（First Generation College Students）にあたりますか？（任意）



APU はインクルーシブな社会の実現を目指し、SDGs の「Goal4 質の高い教育をみんな」に Goal 10 「人や国の不平等を無くそう」へのアプローチを行なっています。

社会構造的な教育機会の不平等を解消し、異なる環境で育った多様な学生が集う大学づくりをミッションの一つと捉え、First Generation students 第一世代大学生への支援を検討しています。

この設問は APU における First Generation students の実態を把握するために設けています。任意での回答となりますのでご協力いただける場合のみご記入ください。注）First Generation students とは、一般的に両親が大学学位を持たない（大卒ではない）学生のことを指します

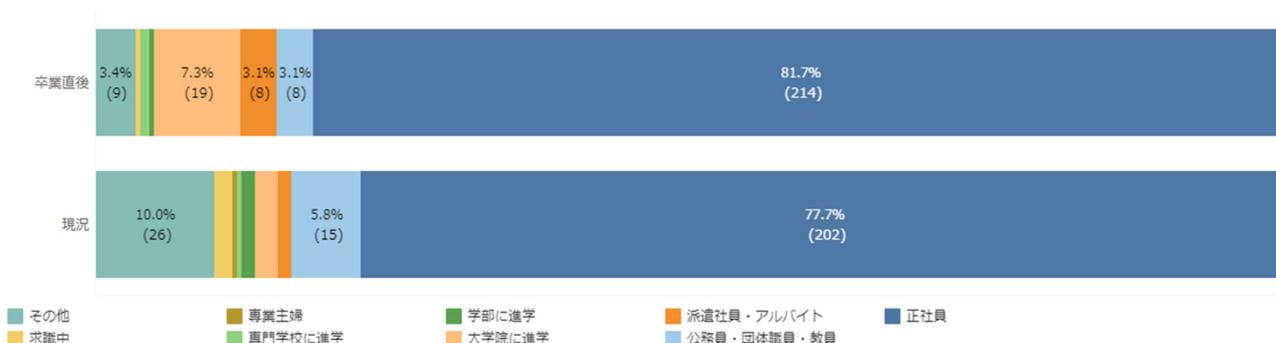
大学卒業後の様子

< 卒業直後の進路と現在の職業 >

卒業後の進路は、卒業直後は 81.7%が「正社員」と回答しているが、現況では「正社員」は 77.7%に減少している。

代わりに、「公務員、団体職員、教員」が 3.1%から 5.8%に増加しており、「その他」が 3.4%から 10.0%に増加しており、キャリアの変化がわかる。

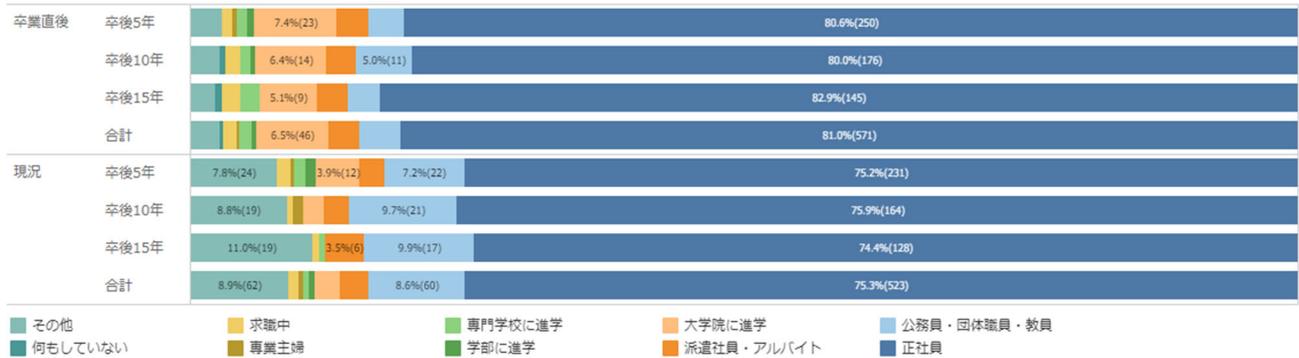
あなたが大学を卒業した後の進路としてあてはまるものを1つ選んでください（上：卒業直後、下：現況）



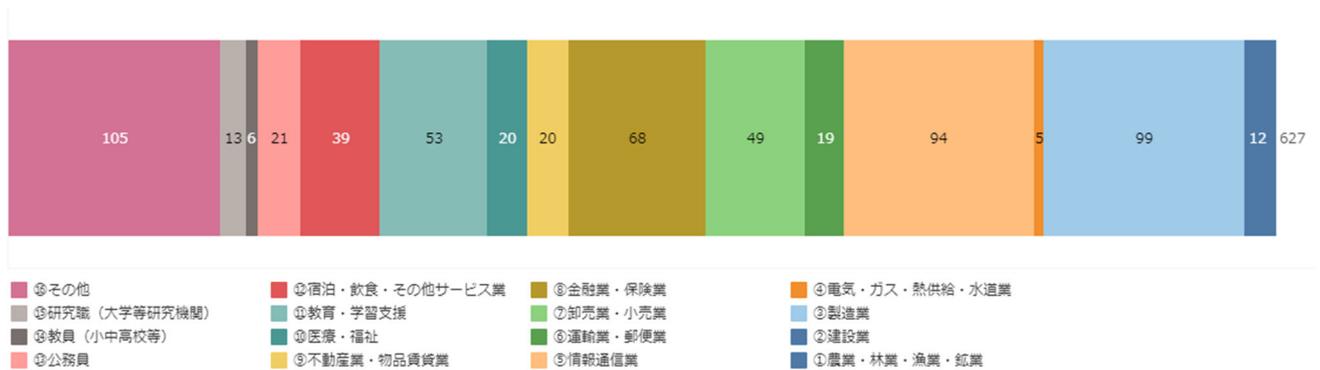
経年データで卒業からの経過年数別に見ると、卒業直後に「大学院に進学」と回答した卒業生は卒後15年では5.1%だったのに対し、卒後5年の卒業生は7.4%となっており、大学院進学を選択する卒業生は増加傾向にある。

また、職種としては「その他」を除くと「製造業」が最も多く、次いで「情報通信業」、「金融業・保険業」だった。
(参考:経年データ)

あなたが大学を卒業した後の進路として当てはまるものを1つ選んでください(上:卒業直後、下:現況)



就業している方にお聞きます。あなたの現況として当てはまるものを1つ選んでください(職種)

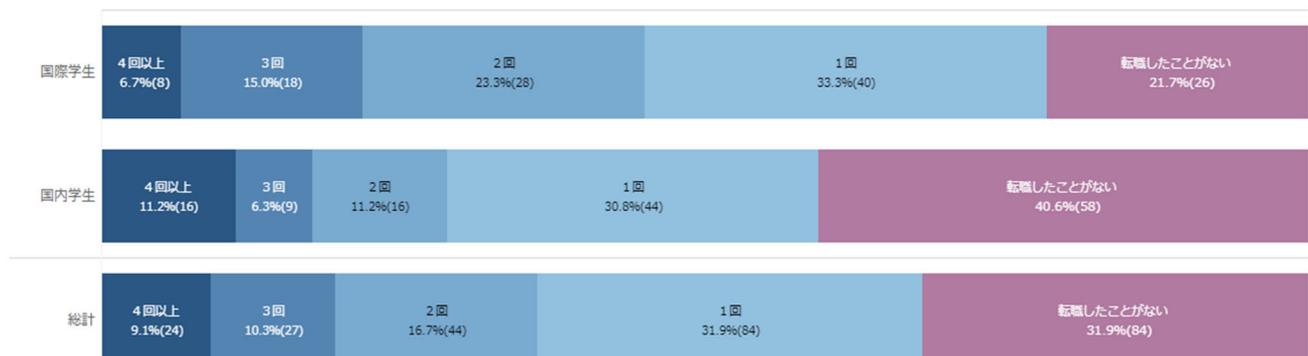


< 転職経験と海外での就業経験 >

国内学生、国際学生、卒業後経過年数別に集計したものを以下に示す。

転職に関しては、全体の68.1%に転職経験があり、国際学生の方が国内学生よりも割合が高く、転職回数も多い。経年データでも同様の傾向であった。

あなたは転職したことがありますか



母国以外での3か月以上の就業経験については、国際学生の64.2%が経験ありだったのに対し、国内学生は25.9%と、大きく差が開いていた。

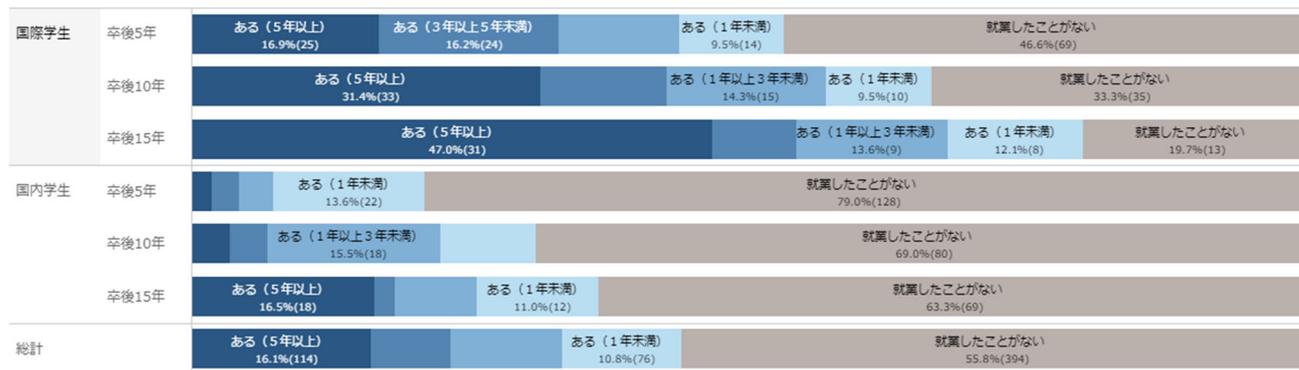
あなたはこれまでに母国以外での3ヶ月以上の就業経験はありますか



経年で見ると、卒業後年数の経過につれて国内学生の就業経験割合は増加し、卒業後15年時点では44.2%まで増加する(国際学生も増加し、80.3%へ)。

(参考:経年データ)

あなたはこれまでに母国以外での3ヶ月以上の就業経験はありますか

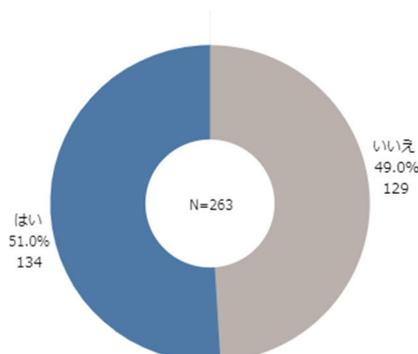


<卒業後に習得した学位や資格>

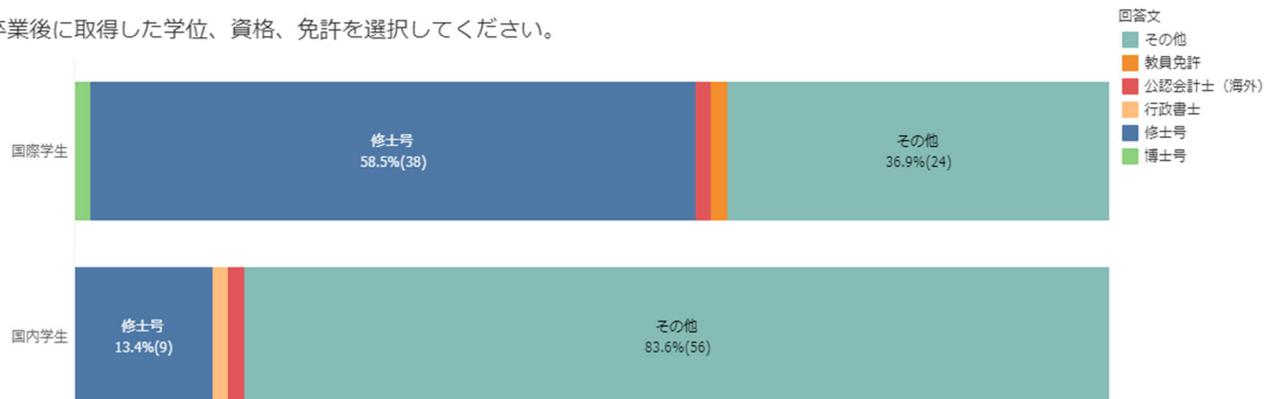
全体の約半数(51.0%)が卒業後に何らかの学位、資格、免許(以下、学位資格等)を取得している。

取得した学位資格等は「その他」を除くと「修士号」が最も多い。特に国際学生は、学位資格等を取得した卒業生のうち58.5%は「修士号」を取得したと回答していて、国内学生の13.4%よりも多い。経年で見ても同様の傾向がうかがえる。

あなたは卒業後に新しい学位、資格、免許を取得しましたか？



卒業後に取得した学位、資格、免許を選択してください。



大学に対する満足度

<大学時代の学び・経験>

大学時代の学びや経験を、「正課の授業」「TA・サークル・イベントなど正課外の活動」「アルバイト・旅行など大学以外の活動」の3つに分け、それぞれ「現在の仕事や生活にどのくらい役に立っているか」を5段階で質問した。

3つの項目とも「とても役に立っている」「役に立っている」という回答が約70%となっており、その中でも「TA・サークル・イベントなど正課外の活動」への肯定回答が最も高く70.0%が役に立っていると回答した。

大学時代の学びや経験はあなたの現在の仕事や生活にどのくらい役に立っていると思いますか。



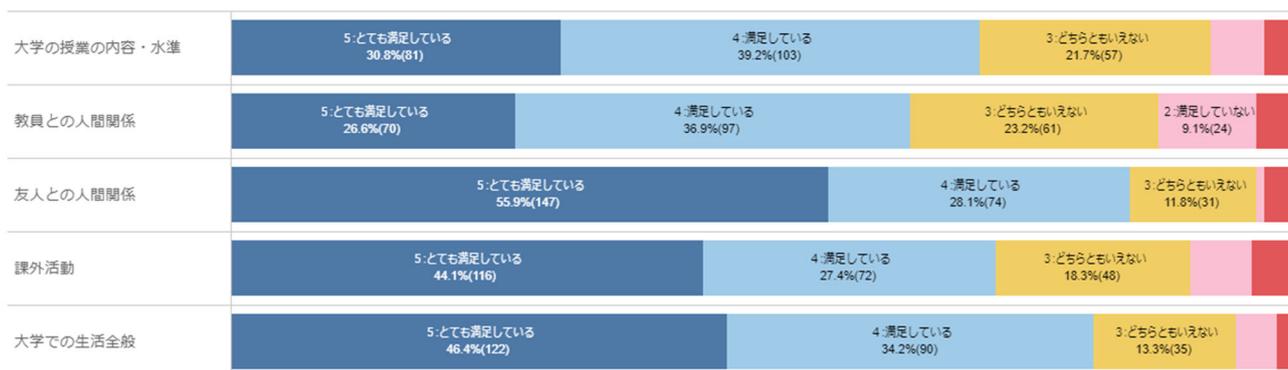
なお、経年では、「アルバイト・旅行など大学以外での活動」への行程回答が最も高く、73.3%となっている（「TA・サークル・イベントなど正課外の活動」は70.1%で次点）。

<大学時代の教育や学生生活>

次に、大学時代の教育や学生生活を「大学の授業の内容・水準」「教員との人間関係」「友人との人間関係」「課外活動」「大学での生活全般」の5つに分け、それぞれ「どの程度満足しているか」を同じく5段階で質問した。

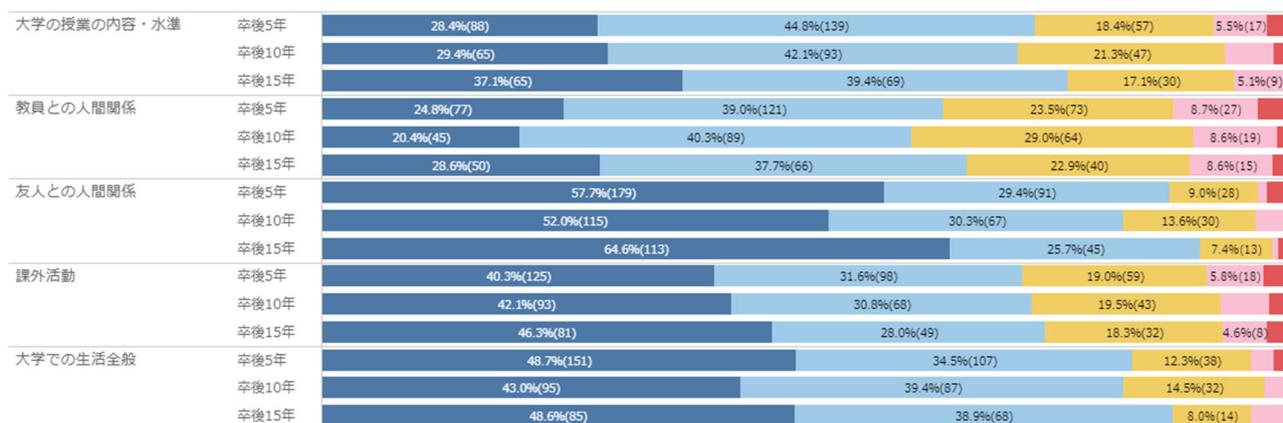
「友人との人間関係」の満足度が最も高く、84.0%が「とても満足している」「満足している」と回答した。「教員との人間関係」は63.5%が「とても満足している」「満足している」と回答したが、5つの項目の中では最も低かった。

あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。



卒業後の経過年数別に見ると、卒後 10 年のグループが卒後 5 年、15 年のグループと比較し、全体的にやや満足度が低い結果となった。

あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。



<APU への満足度>

APU に対する感情を、以下の 5 つに分けてそれぞれ 5 段階で質問した。

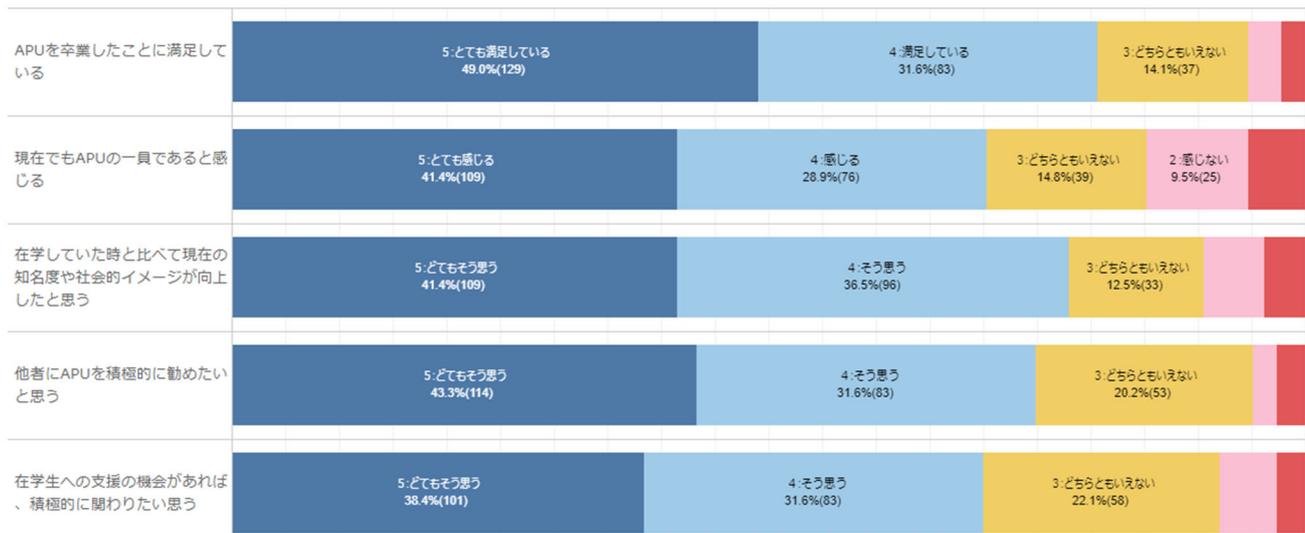
- 「APU を卒業したことを満足している」(満足度)
- 「現在でも APU の一員であると感じている」(帰属意識)
- 「在学していた時と比べて現在の知名度や社会的イメージが向上したと思う」
- 「他者に APU を積極的に勧めたいと思う」
- 「在学生への支援の機会があれば、積極的に関わりたいと思う」

「APU を卒業したことを満足している」(満足度)は、80.6%が満足(「とても満足している」「満足している」と回答している。

「現在でも APU の一員であると感じている(帰属意識)」は肯定的意見が 70.3%。77.9%が「在学していた時と比べて現在の知名度や社会的イメージが向上したと思う」と感じている。「他者に APU を積極的に勧めたいと思う」については、74.9%が肯定的な回答をしている。

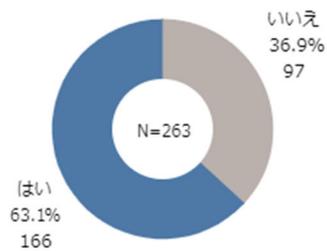
これらの回答は、経年で見てもほぼ同様の割合を示していた。

現在、APUに対してどのように感じていますか。



また、70%が「在学生への支援の機会があれば、積極的に関わりたいと思う」と回答しており、大学からの個別ヒアリングへの協力を承諾する回答が63.1%と、支援意欲を持った卒業生がいることが分かる。

このアンケートに基づき、後日、大学からのヒアリング調査にご協力を頂けますか



卒業生が考える重要なコンピテンシー

APU ルーブリックの 20 のコンピテンシーについて、卒業生が自身の仕事や生活においてどのくらい重要と感じているかを 5 段階で質問した結果を NPS(Net Promoter Score)と共に示す。

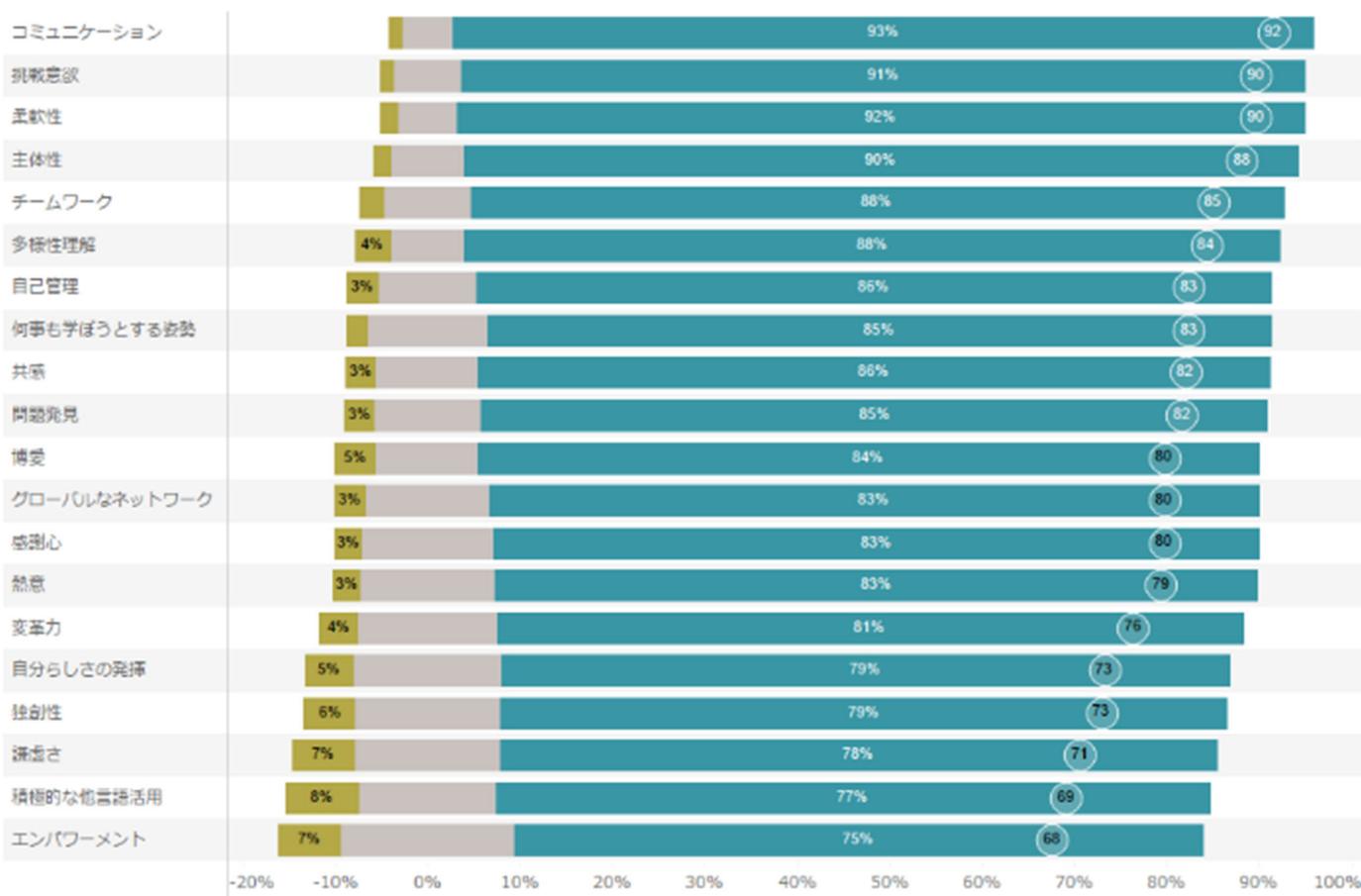
NPS は5「とても重要」、4「重要」と答えた回答者を「肯定者」、3「どちらとも言えない」を「中立者」、1「全く重要ではない」と2「重要でない」と答えた回答者を「批判者」と分類し、回答者全体に占める肯定者の割合(%)から、批判者の割合(%)を引いて出てきた数値である。

肯定者が多く、批判者が少ないほどスコアは上がる。以下は肯定者が多いコンピテンシーの順番に並べたものである。肯定者が最も多かったコンピテンシーは「コミュニケーション」(93%)で、次いで「柔軟性」(92%)、「挑戦意欲」(91%)となった。その後、「主体性」「チームワーク」「多様性理解」と続く。

コンピテンシー (NPS®) (ネットプロモータースコア)

以下の項目は、APUが学生に身に付けて欲しいと考える資質や能力です。
これらの資質や能力はあなたの現在の仕事や生活においてどのくらい重要だと思いますか。

Positive
Negative
Neutral



経年で見ると、同様に「コミュニケーション」が最も肯定者が多く、次いで「柔軟性」「挑戦意欲」となった。その後、「主体性」「何事も学ぼうとする姿勢」「共感」と続いており、いずれも僅差ではあるものの重要度の変化が伺える。